

何を、視たのか。



堀江実監督作品

みずち

出演 川瀬陽太 / 堀江実 / 汐見ゆかり
音楽 吉田アミ + 大谷能生

3日間だけの特別上映!

1/15 木 16 金 17 土

キッド・アイラック・アート・ホール

1/16 上映後にトークショー開催!

1/17 本作の音楽を担当した吉田アミ×大谷能生による朗読DUOライブ!

予約先着200名様に大谷能生による『みずち』オリジナルサウンドトラックを配布!

僕はなんで生まれたんだろう



故郷にダムがつくられ生家は湖の底に沈んだ。父の死をキッカケに里見誠児の頭の中でとつぜん、今は亡き愛犬ジョンの声が響き出す。ジョンに導かれるようにして、故郷である千葉県・南房総へと旅立つ誠児。そして、その旅の道中、誠児は地元の郵便配達員・学と出会う。退屈で平穏な日常に鬱憤を募らせていた学は、誠児が語る「みづち退治」にロマンを抱き、彼と行動を共にする……。

主役の里見誠児役には『サウダージ』（富田克也）をはじめ、インディペンデント映画にも数多く出演する川瀬陽太。誠児の妹・薊役には『Playback』（三宅唱）での好演も記憶に新しい汐見ゆかり。そして郵便配達員・学役には監督自らが役者初挑戦を果たした。さらに、ジョンの声に前衛家・吉田アミ。音楽は菊地成孔とのヒップホップクレー「JAZZDOMMUNISTERS」や映画『乱暴と待機』（富永昌敬）などを手がける大谷能生。

「僕が自ら演じた主人公の「学」とは、僕が生まれる前にこの世を去った兄の名前です。もし彼が生きていたなら、僕は生まれなかったのかもしれない。決して切れない「兄弟」という血のつながりに向き合い、映画のなかで、希望を託すように自らを生き直すことがどうしても必要でした。それはきっと「自然災害」という圧倒的な現実、「妖怪」という想像力を駆使して対抗してきたむかしの人々のように……。まぼろしの兄を媒介することで、僕自身のいまの実感を反映した「兄弟」の映画、それが本作『みづち』で目指された、決して揺るがない映画の姿でした。」（堀江実）

堀江実（ほりえ・みのる）1980年千葉県出身。高校時代より映画を志し、大学在学中は柳町光男に学ぶ。2003年、長谷川和彦の助監督候補に選出。2007年、初監督作品『熊になる』を製作。現在、折口信夫をテーマに、首くり拷問を被写体とした新作『死者ノ書（仮題）』を撮影中。

『みづち』（監督：堀江実、2014年／日本／65分／ブルーレイ）

併映上映『cinemole』（2012年／日本／各5分／ブルーレイ）

川瀬陽太と堀江実、二人きりで秘かに製作されていた短編シリーズ。映画モグラ（シネモール）を自称する男の名画座放浪記。2013年に惜しまれつつも閉館された銀座シネパトスや三軒茶屋中央劇場なども取り上げられている。

Aプログラム（計75分）

『みづち』&『cinemole』早稲田松竹+銀座シネパトス

Bプログラム（計75分）

『みづち』&『cinemole』神保町シアター+三軒茶屋中央劇場

Cプログラム（計75分）

『みづち』&『cinemole』飯田橋ギンレイホール+浅草中映劇場

1/15（木）

18:15 **A** → 上映後、川瀬陽太、堀江実、汐見ゆかり
20:30 **B** による舞台挨拶（登壇者予定）

1/16（金）

16:30 **A**
18:05 **B**
19:40 **C** → 上映後、堀江実（本作監督）と
伊藤彰彦（脚本家・作家）のトークショー

1/17（土）

17:20 **C**
19:00 吉田アミ×大谷能生 朗読 DUO スペシャルライブ*
20:15 **A**

吉田アミ×大谷能生 朗読DUO—文筆家/即興演奏家である男女が、書き言葉を舞台上で引き裂き、揺らめかせようとする試み!!

*1/17の「ライブ付き」入場料金にて、当日のCプログラムまたはAプログラムの上映もご覧いただけます。



入場料金

当日 1300円

予約/学生 1100円

ライブ付き 2500円

予約方法

ホームページの予約フォーム、もしくはメールにて承ります。下記の項目を明記して「genfilm1980@gmail.com」に前日までにお申し込みください。

■件名:「みづち」 ■本文:(1)お名前 (2)メールアドレス (3)人数 (4)日時 (5)電話番号

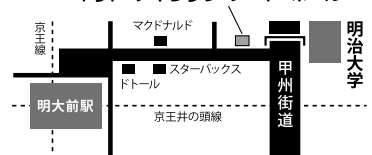
<http://minoruhorie.com/mizuchi>

キッド・アイラック・アート・ホール

〒156-0043 東京都世田谷区松原2-43-11
TEL 03-3322-5564

京王線/京王井の頭線・明大前駅より徒歩2分

キッド・アイラック・アート・ホール



明治大学

甲州街道